商品市況展望

平成 25 年 7 月 14 日記

◆ 『エジプトの変革は地域にどう受け止められているのか』　7 月 11 日　中東ＴＯＤＡＹ

エジプトで起こった第二革命と、その後の軍の台頭、そして臨時大統領の指名と、首相指名という一連の動きは、地域諸国からどう受け止められているのであろうか。またどのような影響が、今後予測されるのであろうか。

一昨日、アラブ首長国連邦政府はエジプト新政府に対し、30 億ドルの供与を発表した。サウジアラビア政府も 50 億ドルの供与を発表している。そして昨日はクウエイトが 40 億ドルの供与を発表した。つまり、湾岸諸国は押し並べて今回のエジプトの政変劇を、歓迎しているということだ。

唯一異なるのはカタールだが、カタールの地域への影響力は、次第に後退していくのではないか。既にお伝えしたように、カタールのアルジャズイーラ･テレビは、あまりにもアラブ諸国の不安定化を、扇動する内容の放送を続けたために、次第に視聴者に嫌われているし、スタッフが局側に抗議して、退職するということも起こっている。

チュニジア、エジプト、リビアの革命ではそれを大げさに煽り、リビアの場合は反カダフィ派に対し、武器を供与してもいた。シリアでは直接的に武器や、資金の支援を行ってきている。

しかし、シリアの反政府側が政府軍の兵士を殺害し、内臓を食うシーンが世界中に流れ、キリスト教の司祭を斬首するシーンが流れ、サリン・ガスの使用が使えられると、カタールの反シリア支援は、ひんしゅくを買うようになっている。

トルコも同じであろう。シリアの反体制派に送られるサウジアラビアやカタールからの武器や資金を、トルコは自国を経由して送っていた。こうした活動は誰もが知っており、エジプトでいったん変化が起こると、一斉に非難が広がろう。

タクシム広場の公園を壊して、巨大なショッピング・モールを建設するというエルドアン首相の構想は、庶民から大反対され強硬対応したのだが、いまだに解決していない。そのようなことも影響し、トルコのリラが値下がりし、観光客も減っている。トルコの経済に与えるダメージは、少なくないだろう。

エジプトの第二革命以来、反シリアの勢いは少し下がり始めている。そもそもシリアの反体制側では、ムスリム同胞団の存在が大きいのだが、今回のエジプトの変革で同組織への悪影響が出てきたということであろう。

そのため、シリアのアサド大統領は、内心ホッとしているのではないか。イギリスが『もしアサド体制を打倒すれば、シリアにある化学兵器が拡散し、危険な状況になる。』と警告したのは間接的なアサド体制支持ではないのか。

◆『アルジャズイーラスタッフ編集方針に反発辞職』　7 月 10 日　中東ＴＯＤＡＹ

今回のエジプトの第二革命から軍の行動をめぐり、現場のスタッフとアルジャズイーラ本部編集局との間で、摩擦が起こった。このため、多数の在エジプト・スタッフが辞職したようだ。全員で何人かは分からないが、今のところ明らかになっているだけで、7 人に上るということのようだ。

アルジャズイーラ放送を見ていると、どうもアラブの春をあおる傾向が強かった。つまり、騒動が革命に発展するように、あおりたてる傾向が強かったということだ。

一例をあげると、以前リビアの西部の町ズワーラで、デモに軍が対応した時、アルジャズイーラの特派員は『残忍にも実弾が容赦なく市民に向けて発射されています』と解説したことがある。しかし、その画面には催涙弾の薬きょうがころころと転がってるシーンが映っていた。つまり実弾は発射されていなかったのだ。

私はアルジャズイーラの放送は、アメリカの意向を受けたプロパガンダであって、正しくないという判断をだいぶ前からしていた。それは注意深く見ているとわかることだ。

今回の場合、エジプトで起こったのは、間違いなく経済苦と失業問題、それにムスリム同胞団政権の暴走に、反発した市民が立ち上がった、第二革命であり、軍が動いたのは、ムスリム同胞団側と市民側が衝突し、大混乱になることを防ぐためであった。

その事実を、現場にいるアルジャズイーラのスタッフは知っており、そのようにニュースを編集して送ると、本部で『軍の暴走』『軍によるクーデター』として放送されたのだ。

アルジャズイーラの現場スタッフたちは、アルジャズイーラ局がイスラム原理主義者たちをひいきにした内容に、ニュースを歪曲していると怒っている。そうしたアルジャズイーラ放送局の方針に、プロ意識を抱くスタッフは、堪忍袋の緒が切れたということであろう。

この事実を世界の良識ある人たちは、少しでも多くの人たちに、知らせるべきではないのか。アメリカ政府の意向を受けた、カタール政府の宣伝臭の強い内容の放送を、できるだけ多くの人たちに、気が付いてもらうべきであろう。

第二革命を終えたエジプトの世俗派の人たちは、必死に民主的な国を創り上げようとしているのだから。サウジアラビアとアラブ首長国連邦が、エジプトに対していち早く資金援助を申し入れた。その額は合計で 80 億だといわれている。今は批判より支援が第一だろう。

NY 原油価格が再び 100 ドルを大きく突破して来ている。この上昇の原因となっているのが、中東情勢の緊迫化だ。もちろんエジプトは産油国ではないのであるが、このブログを見ると中東情勢は、シリアや産油国も含めて、複雑怪奇にからみあっているようだ。

エジプト・モルシ大統領が退任して、新しい大統領が誕生しても直ぐには安定するとは思えず、一連のアラブの春の結果に出来た民主国家は新たな混乱を招いている。エジプトの問題はシリアの内戦とも深く関わっており、シリアの反政府派をカタールやエジプトやトルコなどが支援し、シリアのアサド政権を支持しているのはヒズボラやロシアやイランなどだ。結局、シーア派とスン二派の宗教戦争でもあり、アメリカとロシアの代理戦争でもあるのだろう。

日本人には、宗教勢力がこんなに政治に対して力を持つ現象は不思議に感じるが、日本だって信長の前の時代には寺院が圧倒的な勢力を持っていたわけで、西洋植民地政策の先兵であるキリスト教も秀吉、家康の時代に徹底的に弾圧したため、政教分離が進んだわけだ。

この時代、まさか信長のように坊主や信徒を焼き殺すわけにもいかないだろうから、まだまだこういう宗教戦争が続いてゆくのかもしれない。それも選挙で合法的にイスラム勢力が勝ってしまえば、どの国も手を出せないわけであり、民主化というのもこの地域では大変なのだろう。

もっとも日本だって公明党や幸福党という宗教勢力が選挙に出馬しているわけであるし、そこまで日本が特別だと言うつもりもない。(明治維新～太平洋戦争までの国家神道の時代もあるし)ただしそれらの党が第一党になる事も無いわけで、そのへんが日本人の冷静なところかな？

〔貴金属〕

〇東京金日足

…削除済み…

今週の金の値動き

	8 月限（当限）	前日比	6 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥3,969	−39	¥3,970	−39
7 月 9 日	¥4,094	125	¥4,093	123
7 月 10 日	¥4,037	−57	¥4,038	−55
7 月 11 日	¥4,106	69	¥4,106	68
7 月 12 日	¥4,088	−18	¥4,081	−25

金相場は、先週号においては『3,750 円で底入れ。調整安はあっても、目先は押し目買い相場であるとの見方である』とコメントした。

今週の相場展開は、**4,127 円（7/11）**までの戻り高値を記録。これで底値である 3,750 円からは **377 円幅の戻り**となった。

6/28 に記録した安値 3,750 円は底値であるとコメントして来ているが、現状では 377 円幅の戻りを入れる情勢である。

もちろんその前の下落は、4/11 の 5,078 円からだと 1,328 円、戻り高値の 5/10 の 4,760 円からでも 1,010 円の下落を演じていたわけで、下げた幅に比べればちょっと反発しただけだ。

…中略…

チャートでは前回安値の 4,132 円は一つの上値抵抗線であり、3,750 円まで崩れる前のもみ合ったところである 4,200 円どころも一つの壁。そして三尊天井のネックラインである 4,430 円（5/20）が次の壁であり、それがこの戻り相場の最終目標値であると考えている。

逆に下値支持線は 3,750 円はもちろんであるが、週明けの安値である **3,928 円も重要なポイント**。これを割る様では一気にムードは悪化するだろうし、2 番底を取りに行くのが先になるだろう。

ともかくこの金相場。…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 8 月	¥4,224	8 月 29 日	¥5,873	2 月 7 日	¥3,765	6 月 28 日	¥4,088
2013 年 10 月	¥4,404	10 月 29 日	¥5,077	2 月 7 日	¥3,761	6 月 28 日	¥4,081
2013 年 12 月	¥4,519	12 月 25 日	¥5,081	2 月 7 日	¥3,745	6 月 28 日	¥4,081
2014 年 2 月	¥4,759	2 月 26 日	¥4,979	3 月 21 日	¥3,751	6 月 28 日	¥4,086
2014 年 4 月	¥4,585	4 月 25 日	¥4,760	5 月 10 日	¥3,749	6 月 28 日	¥4,084
2014 年 6 月	¥4,031	6 月 26 日	**¥4,127**	**7 月 11 日**	¥3,750	6 月 28 日	¥4,081

○NY 金日足
…削除済み…
7/12 の NY 市場では、前日比 2.3 ドル安の急落で 1277.6 ドルでの終了。前日は高値で 1,300 ドルに突っ掛け、こちらのチャートも東京市場と同じような線形となっている。
換算では 4 円高であるが、東京市場は 3 連休に入っているため、もう一日分の外電が入るわけであり、連休明けの相場は不明だ。
だが当方としては、**1179.4 ドル（6/28）は底値**との考え方であり、1250 ドル辺りが押し目の限界であるとの判断だ。

チャート上での**上値抵抗線は 1321.5 ドル**であり、…中略…

なお CFTC 発表の 7/9 現在のファンドのポジションは、前週比 4,200 枚減の 1 万 6,500 枚のロング。7/2 も 1 万 3,400 枚のロングの減少であり、**ファンドの買いは 5 週連続の減少**である。
ピーク時は 25 万枚あったロングがすでに 1 万枚台まで減っているわけで、隔世の感がある。**ただし取組高は 43 万枚と増加している**わけで、実はファンドの売り玉がどんどん増加しているわけだ。
相場が弱いと思っているから売っているのだろうし、ヘッジで売っている分のあるのかもしれない。しかし売ったものは必ず買い戻さねばならぬわけで、果たしてその時に何が起きるかである。容易に想像付くでしょう？

また 7/11 現在での ETF 残高は、1337.52 トンと前週比 27.72 トンの減少である。**15 週連続の減少**であり、**ピーク時の 1800 トンからまだ減り続けている**。

結論として当方の相場観は、押し目買い継続の相場であろう。次の目標は 4,200 円乗せであり、最終目標は 4,400 円台である。

〇東京プラチナ日足
…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	8 月限（当限）	前日比	6 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥4,359	41	¥4,356	36
7 月 9 日	¥4,503	144	¥4,510	154
7 月 10 日	¥4,435	−68	¥4,439	−71
7 月 11 日	¥4,480	45	¥4,489	50
7 月 12 日	¥4,503	23	¥4,512	23

プラチナ相場は、先週号においては『押し目買いではあるものの、やはり金よりも値幅は大きくなるか。まだ 4,600 円台は上値の壁でもあろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には **4,545 円の高値**まで記録し、これで底値と判断していた **4,125 円（6/27）からは 420 円幅の戻り**となった。

4,125 円（6/27）→4,493 円（7/3）までの 368 円幅の上昇が第一派。そこから 4,274 円（7/8）まで 219 円下げ、今は第二派の上昇中か。もしも同じ幅だけ上がるとすれば、ズバリ二派の終了点は 4,642 円である。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナ一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 8 月	¥3,860	8 月 29 日	¥5,274	2 月 7 日	¥3,807	8 月 31 日	¥4,503
2013 年 10 月	¥3,998	10 月 29 日	¥5,288	2 月 8 日	¥3,933	10 月 30 日	¥4,500
2013 年 12 月	¥4,249	12 月 25 日	¥5,300	2 月 8 日	¥4,122	6 月 27 日	¥4,505
2014 年 2 月	¥4,831	2 月 26 日	¥5,052	3 月 12 日	¥4,125	6 月 27 日	¥4,511
2014 年 4 月	¥4,622	4 月 25 日	¥4,999	5 月 16 日	¥4,109	6 月 27 日	¥4,513
2014 年 6 月	¥4,284	6 月 26 日	**¥4,545**	**7 月 12 日**	¥4,125	6 月 27 日	¥4,512

〇プラチナ－金価格差日足
…削除済み…

週末現在のサヤは、4,512 円（プラチナ）－4,081 円（金）＝431 円。金との順ザヤはまた拡大して来た。

トレンドは右肩上がりの図式であり、適当な押し目を入れながら拡大を続けているわけで、このパターンはしばらく続きそうだ。

結論として当方の相場観は、押し目買いの継続ではあるが、そろそろ抵抗線に接近する。リスクとリターンを考えた場合、高いところを買うのは危険になって来ただろう。場合によっては、途転売りも考える時期が接近しているかもしれない。

〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	9 月限（当限）	前日比	7 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥28,230	−20	¥26,550	−130
7 月 9 日	¥29,170	940	¥27,090	540
7 月 10 日	¥29,500	330	¥27,590	500
7 月 11 日	¥28,900	−600	¥27,150	−440
7 月 12 日	¥28,800	−100	¥27,230	80

まずはコーンから…

先週号においては『6 月天井を打っている相場である。戻り売り継続の相場であり、ファンダメンタルズでは買い材料は皆無である』とコメントした。

今週の相場展開は、**27,800 円（7/10）まで上昇**するものの、その後は反落。

今週の戻り場面では、昨年に引き続きホット＆ドライの懸念が台頭。そのため **26,520 円（7/8）→27,800 円まで 1,280 円の急反騰**となったが、その後はまたダレた。乾燥した天候が生育を助けるだろうと観測されたためだ。

当方が天井を打ったと考えている 6/3 の高値は 28,970 円。その後 2 度の山を形成しているが、**28,410 円（6/21）、27,800 円（7/10）と切り下がっている**。その前の 3 月、4 月は切り上がっていたのだから、それとは全然違うわけだ。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 9 月	¥28,500	8 月 16 日	¥33,570	6 月 3 日	¥25,510	10 月 1 日	¥28,800
2013 年 11 月	¥25,600	10 月 16 日	¥28,910	5 月 30 日	¥24,420	11 月 14 日	¥26,470
2014 年 1 月	¥25,700	12 月 17 日	¥28,600	6 月 3 日	¥24,930	12 月 21 日	¥26,780
2014 年 3 月	¥27,290	2 月 18 日	¥28,750	6 月 3 日	¥25,690	4 月 4 日	¥27,060
2014 年 5 月	¥26,550	4 月 17 日	¥28,970	6 月 3 日	¥26,200	6 月 17 日	¥27,170
2014 年 7 月	¥26,600	6 月 17 日	¥28,410	6 月 21 日	¥26,300	6 月 17 日	¥27,230

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末 7/12 のシカゴ市場は、7 月限で前日比 15.25 セント安の 701.50 セント。12 月限では 17.75 セント安の 509.25 セント。

…中略…

なお CFTC 発表の 7/9 現在のファンドのポジションは、前週比 3 万 5,700 枚減の 3,400 枚のシ

ョート。7/2 には 7 万 6,200 枚も大幅減少し、そして今週ついに**ファンドの買いは 6 週連続の減少で、途転売りポジションとなったわけだ**。

ちなみに大豆はまだ 10 万枚超の買い越しだが、コーンは 2 週連続の大幅売りでショートポジションに変わったわけであり、如何にファンドも弱気に変わったかを如実に表すものとなっている。

結論として当方の相場観は、収穫期には急落するのではあるまいか。徐々山が低くなっている相場展開は、すでに天井を打っており、そのうちに底抜けするものと考えている。

〇東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	8 月限（当限）	前日比	6 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥62,770	−470	¥54,560	−520
7 月 9 日	¥63,330	560	¥55,580	1020
7 月 10 日	¥63,390	60	¥55,690	110
7 月 11 日	¥63,280	−110	¥55,010	−680
7 月 12 日	¥62,900	−380	¥54,970	−40

続いて一般大豆です…

先週号においては『7/3 の高値でコーンからひと月遅れの天井を付けたのではあるまいか？ここからは売り方針である』とコメントした。

今週の相場展開は、7/10 には **56,340 円の高値**まで記録。当方が天井と考えていた 7/3 の高値から、なお 1,000 円幅の上昇を演じる事となったが、その後は軟化して週を終えた。

7/3 の高値は 55,400 円であった。これで天井かと思いきや、更に一段高があったわけだが、**青天井になるほどの相場ではあるまい。山高ければ谷深しを信じ、売り上がり方針である。**

もっとも大豆は 10 月限納会までは旧穀ゆえ、これが無くならないと本格的な崩れは来ないのかもしれない。コーン売りに対するヘッジ買いの側面も強いのかもしれない。危惧はそれだけだ。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 8 月	¥48,020	8 月 16 日	¥64,900	5 月 16 日	¥47,500	11 月 13 日	¥62,900
2013 年 10 月	¥47,220	10 月 16 日	**¥68,750**	**7 月 10 日**	¥46,920	10 月 16 日	¥67,660
2013 年 12 月	¥50,680	12 月 17 日	**¥58,000**	**7 月 12 日**	¥48,450	1 月 9 日	¥57,680
2014 年 2 月	¥53,000	2 月 18 日	**¥55,600**	**7 月 10 日**	¥50,150	4 月 4 日	¥55,320
2014 年 4 月	¥50,910	4 月 17 日	**¥56,800**	**7 月 10 日**	¥49,850	5 月 2 日	¥55,360
2014 年 6 月	¥51,760	6 月 17 日	**¥56,340**	**7 月 10 日**	¥51,730	6 月 17 日	¥54,970

今週も当限を除いて全限が一代高値の更新である。

〇シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末 7/12 のシカゴ市場では、7 月限で前日比 38.00 セント安の 1563.25 セント。11 月限では 33.50 セント安の 1257.25 セント。

…中略…

なお CFTC 発表の 7/9 現在のファンドのポジションは、前週比 400 枚増の 10 万 4,400 枚のロング。7/2 は 4,500 枚の減少だったゆえに、横ばいの状態である。

ここ最近の大豆のファンドの動きは、5 万枚～25 万枚のロングでの動き。10 万枚は多くもなく、少なくもない水準なのであるが、コーンはすでに途転売りに転換している。**世界需給ではコーン在庫の 16%台に対し、大豆は 27%台と実は多い**わけでもあり、収穫が順調に推移した場合には、大豆も途転売りになっても驚かない。

結論として当方の相場観は、相場を引っ張る旧穀の最終限月である 10 月限の踏み上げ相場が終了しないと大きく下がらないのかもしれないが、危惧はそれだけ。新穀は戻り売りの相場だと思われ、高値は敢然と売り上がるのがベターであろう。

〔ゴム〕

○東京ゴム日足
…削除済み…

今週のゴムの値動き

	7 月限（当限）	前日比	12 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	237.9	−2.1	240.1	−5.0
7 月 9 日	238.5	0.6	241.5	1.4
7 月 10 日	231.9	−6.6	234.7	−6.8
7 月 11 日	240.4	8.5	245.1	10.4
7 月 12 日	232.8	−7.6	238.4	−6.7

先週号においては『所詮は戻り売りの相場であろうと見ているが、どこまで戻せるか、どこで売るかが焦点の相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、240 円を挟んだもみ合い。

チャートでは **225.0 円（6/25）が底になり、249.0 円（7/3）が戻り天井**になっている情勢である。この 24 円幅の動きを、果たしてどちらに抜けるかである。

ゴム自体のファンダメンタルズでは、供給不安は全く無い情勢であり、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	316.3	1 月 28 日	337.8	2 月 6 日	222.2	6 月 21 日	232.6
2013 年 8 月	301.0	2 月 25 日	302.1	2 月 25 日	222.6	6 月 25 日	237.2
2013 年 9 月	279.5	3 月 26 日	297.7	5 月 13 日	221.9	6 月 25 日	235.5
2013 年 10 月	253.7	4 月 24 日	299.0	5 月 13 日	222.3	6 月 25 日	237.7
2013 年 11 月	267.7	5 月 28 日	274.8	5 月 29 日	223.9	6 月 25 日	238.1
2013 年 12 月	231.0	6 月 25 日	249.0	7 月 3 日	225.5	6 月 25 日	238.4

当先のサヤは、7 月限 232.6 円～12 月限 238.4 円と **5.8 円の順ザヤ**。順ザヤ幅に大きな変化はない。

週末現在の輸入採算価格は、8 月積みで 271.3 円。東京市場 8 月限は 237.2 円であるため、**34.1 円の大幅下ザヤである**。…中略…

タイ産地の集荷量は、一日当り 160～250 トン台。順調である。

国内営業倉庫在庫は、…中略…

上海ゴム在庫は、7/12 現在で前週比 109 トン増の 11 万 4,230 トン。2 週連続の増加である。

上海ゴム価格は、…中略…

結論として当方の相場観は、戻り売り相場だと考えているものの、仕掛けポイント＆材料ともに明確になっていない。売り場のポイントを探しているところである。

〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足
…削除済み…

まずは原油から…

先週においては『中東情勢の混乱プラス米景気回復で一気にもみ合い上放れになって来た相場である。現状では、値頃感無用でついて行くしかあるまい。買い方針である』とコメントした。

今週の相場展開は、**NY 原油は 107.45 ドル（7/11）まで上昇**。週末 7/12 は、前日比 1.04 ドル高の 105.95 ドルでの終了である。国内換算では 1,100 円高であるが、国内市場は連休でもう一日分が入る。

週末の高値は 106.20 ドルであり、まだ前日の 107.45 ドルは抜いていない。しかし **100 ドル台乗せからは完全に青天井の様相で上がって来ている相場**であり、勢いが止まったとはまだ言えないところである。

先週号において、「**チャートでは、この半年間続いてきた 85 ドル～98 ドルの相場を完全に上放れしてきた事となる**。…中略…単純に**もみ合い倍返しなら 111 ドル台まで上昇**する事となる。また**直近の 99 ドル→92 ドルまでの押しの倍返しなら、106 ドルが目標**の相場になる」としたが、**まずはその 106 ドルはクリアしたわけで、さて 111 ドルまであるかどうか？**

今更、ここから買って幾ら取れるんだ？というところなので、ぼちぼち売り場を探したいところではあるが、売りのタイミングは早すぎると燃え種になるゆえ、慎重に見極めたいところ。

また週末の**ロンドンブレントは**…中略…

なお **7/12 現在のファンドのポジションは**、前週比 5,800 枚増の 30 万 5,400 枚のロング。7/2 にも 2 万 1,100 枚の増加を示しており、**ファンドは 2 週連続の買い越しでロングポジションを大きく積み上げた**。

つまり 100 ドル突破～青天井の大きな要因は、ファンドの買い圧力という事になる。

○東京原油日足
…削除済み…

今週の東京原油の動き

	7 月限（当限）	前日比	12 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥65,280	1280	¥64,220	1520
7 月 9 日	¥65,430	150	¥64,390	170
7 月 10 日	¥65,050	−380	¥64,000	−390
7 月 11 日	¥64,470	−580	¥63,250	−750
7 月 12 日	¥64,430	−30	¥63,000	−250

東京原油は、**64,830 円（7/8）**まで上昇した後、**週末に掛けては陰線での下落である**。

チャートではちょうど良い押しにも見えるが、まだ 5 月の高値も更新しておらず、NY 原油のチャートとは大違いである。この原因は、前述のとおり中東産原油は NY 原油ほど上がっていな

いためだ。

ただし相対力指数も 55 ポイント台であり、7/8 の高値時点でも 70 ポイントに全然届いていない。この状態で売るのは危険であり、今後東京も NY 原油のように舞い上がらないとは限らず、買い方針を訂正するのは早い。

チャートでは 62,000 円辺りまでは調整の範囲内であり、**65,000 円を超えれば青天井への第一歩であろう**。…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 7 月	¥62,910	2 月 1 日	¥66,460	2 月 13 日	¥57,780	4 月 18 日	¥64,440
2013 年 8 月	¥60,560	3 月 1 日	**¥65,870**	**7 月 8 日**	¥57,360	4 月 16 日	¥64,240
2013 年 9 月	¥62,370	4 月 1 日	**¥65,530**	**7 月 8 日**	¥57,370	4 月 18 日	¥63,890
2013 年 10 月	¥59,500	5 月 1 日	**¥65,280**	**7 月 8 日**	¥57,510	5 月 2 日	¥63,610
2013 年 11 月	¥60,370	6 月 3 日	**¥65,070**	**7 月 8 日**	¥58,040	6 月 14 日	¥63,290
2013 年 12 月	¥60,580	7 月 1 日	**¥64,930**	**7 月 8 日**	¥60,210	7 月 1 日	¥63,000

結論として当方の相場観は、NY 原油はここから上昇して幾らあるの？という値位置まで上がってきたが、東京原油はまだ押し目買い方針堅持で良かろう。

〇東京ガソリン日足
…削除済み…

今週のガソリンの値動き

	8 月限（当限）	前日比	1 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥77,950	1470	¥75,660	1560
7 月 9 日	¥77,950	0	¥75,800	140
7 月 10 日	¥78,690	740	¥75,620	−180
7 月 11 日	¥78,180	−510	¥75,140	−480
7 月 12 日	¥78,030	−150	¥74,840	−300

続いてガソリンです…

先週号においては『完全にもみ合い上放れになった相場である。しばらくは押し目買い方針で臨むしかあるまい。目標値は 8 万円近いところまで引き上げたい』とコメントした。

今週の相場展開は、**76,400 円（7/10）**まで上昇した後、週末に掛けては若干下落。しかし夜間取引では再び 75,000 円台後半まで上昇である。

ガソリン自体に明確な買い材料は無いものの、…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 8 月	¥76,550	1 月 28 日	¥82,250	2 月 13 日	¥69,600	4 月 16 日	¥78,030
2013 年 9 月	¥78,930	2 月 26 日	¥79,590	3 月 12 日	¥69,050	4 月 18 日	¥76,870
2013 年 10 月	¥74,630	3 月 26 日	**¥77,420**	**7 月 10 日**	¥68,150	4 月 18 日	¥76,020
2013 年 11 月	¥72,990	4 月 26 日	**¥76,950**	**7 月 10 日**	¥68,030	5 月 2 日	¥75,510
2013 年 12 月	¥71,760	5 月 27 日	**¥76,550**	**7 月 10 日**	¥69,450	6 月 14 日	¥75,120
2014 年 1 月	¥70,660	6 月 26 日	**¥76,400**	**7 月 10 日**	¥69,520	6 月 27 日	¥74,840

7/12 現在の業者間転売価格は、78,500 円（税抜き）**と前週比 1,300 円高**。この上昇では、スタンド価格の上昇も当然。季節習性で逆ザヤになっている先物市場だが、やはり 3,000 円以上の下ザヤは割安に見える。

7/6 現在のガソリン在庫は、前週比 9.3 万 kl 減の **209.1 万 kl**。前年同期比では 7.39 万 Kl 少ない水準であるが、適正水準である。

製油所稼働率は 86.8%であり、生産はアップしているが、需要も好調で在庫減となっている。

結論として当方の相場観は、押し目買い一貫の相場であろう。最大で 83,000 円台までの上昇を予測しており、少なくともまだ天井は遠いとの判断である。

〇東京灯油日足
…削除済み…

今週の灯油の値動き

	8 月限（当限）	前日比	1 月限（先限）	前日比
7 月 8 日	¥76,730	1430	¥78,800	1450
7 月 9 日	¥76,870	140	¥78,940	140
7 月 10 日	¥76,340	−530	¥78,340	−600
7 月 11 日	¥75,810	−530	¥77,610	−730
7 月 12 日	¥75,520	−290	¥77,300	−310

最後に灯油です…

先週号においては『一気に上放れした相場は、おそらく 8 万円台まで駆け上がる可能性が高いだろう。押し目待ちに押し目無しの展開も考えられるが、推奨はそれでも押し目買いである』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けには **79,600 円（7/8）まで上昇**。週末に掛けては 3 連続陰線での下落となったが、その後の夜間取引では 78,000 円台まで切り返している。

連休明けにはもう一日分の外電が入るため…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013 年 8 月	¥74,200	1 月 28 日	¥82,030	2 月 12 日	¥67,720	4 月 18 日	¥75,520
2013 年 9 月	¥76,550	2 月 26 日	**¥77,460**	**7 月 8 日**	¥68,340	4 月 18 日	¥75,740
2013 年 10 月	¥74,090	3 月 26 日	**¥78,120**	**7 月 10 日**	¥69,000	4 月 18 日	¥76,160
2013 年 11 月	¥75,350	4 月 26 日	**¥78,700**	**7 月 8 日**	¥69,850	5 月 2 日	¥76,580
2013 年 12 月	¥74,610	5 月 27 日	**¥79,430**	**7 月 8 日**	¥71,580	6 月 14 日	¥77,200
2014 年 1 月	¥73,900	6 月 26 日	**¥79,600**	**7 月 8 日**	¥72,650	6 月 27 日	¥77,300

7/12 現在の業者間転売価格は、76,250 円（税抜き）と**前週比変わらず**。不需要期のスポット価格に指標性は無いが、先物がそれよりも 1,000 円ほどしか高くないのは、さすがに割安に見える。

7/6 現在の灯油在庫は、前週比 13.6 万 kl 増の **206.2 万 kl**。在庫は増加中であり、前年同期比で 3.9 万 Kl 多い水準まで回復した。

だが灯油と成分が似ているジェット燃料在庫は、まだ過剰であり前年同期比では 11.2 万 kl 多い。一方で軽油は 25.1 万 kl 少なく、製品によって在庫にばらつきがある情勢だ。

結論として当方の相場観は、8 万円相場を目前に一度調整が入ったが、これは理想的なパターンかも。押し目買いの継続で、高値更新を目標に掲げる相場であろう。

〔為替〕

○ドル/円相場日足

…削除済み…

93.79 円（6/13）→101.53 円（7/8）まで円安の反騰相場が出た後、98 円台まで若干円高に。

…中略…

なお来週の主な予定は、

15 日（月）日本は祝日で休場（海の日）、中国 GDP 第 2 四半期、鉱工業生産・小売売上高、米小売売上高、米 NY 連銀製造業景気指数（7 月）

16 日（火）東証と大証が現物市場を統合、米消費者物価・鉱工業生産・設備稼働率（6 月）

17 日（水）**日銀議事録**、米ベージュブック（地区連銀経済報告）、米住宅着工・建設許可件数
バーナンキ FRB 議長、下院で金融政策について議会証言

18 日（木）米景気先行指数（6 月）、米新規失業保険申請件数（12 日までの週）、
バーナンキ FRB 議長、上院で金融政策について議会証言

19 日（金）**G20 財務相・中央銀行総裁会議**（モスクワ、20 日まで）

21 日（日）**第 23 回参議院議員通常選挙、投開票**

などである。

○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

ユーロ/円相場は、もみ合い、横ばい相場に入った様相だ。

…中略…

○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

7/9 の 1 ユーロ＝1.275 ドルまでドル高が進んだ相場であったが、ドラキ発言から一気にドル安/ユーロ高の反発が来た。

これが NY 金の反騰の主因であり、今後も商品市場にはユーロ/ドル相場の動向からは目が離せないだろう。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものでは在りません。
（当たり前ですが念のため）

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com